

とらほく

「ダム管理におけるシュミレータ訓練」
ゆきみらい2007in会津
除雪機械展示・実演会見聞記



目次

	Right	Left
巻頭言/「ダム管理におけるシュミレータ訓練」 東北電力株式会社 土木建築部長 青沼 正光	2	21
ゆきみらい2007in会津 除雪機械展示・実演会見聞記	3	20
お知らせ/「1・2級建設機械施工技士」	8	15
箱根に遊ぶ 豊國工業(株) 高橋 馨	9	14
お知らせ/「EE東北'07」新技術展示会	11	12
支部行事	12	11
国土交通省コーナー/「公共工事の品質確保対策について」 東北地方整備局 企画部 施工企画課	16	7
安全コーナー/安全について	19	4
平成18年度除雪講習会を開催 施工部会長 山崎 晃	22	1

表紙写真撮影：豊國工業(株) 高橋 馨 「蔵王と一目千本桜」

発刊のご案内

2007年版 日本建設機械要覧

■内容

- ・ブルドーザおよびスクレーバ
- ・掘削機械
- ・積込機械
- ・運搬機械
- ・クレーン、インクラインおよびウインチ
- ・基礎工事機械
- ・せん孔機およびブレーカ
- ・トンネル掘削機および設備機械
- ・骨材生産機械
- ・環境保全およびリサイクル機械
- ・コンクリート機械
- ・モータグレーダ、路盤機および締固め機械
- ・舗装機械
- ・維持修繕・災害対策機械および除雪機械
- ・作業船
- ・高所作業者・エレベータ、リフトアップ工法、横引き工法および新建築生産システム
- ・空気圧縮機、送風機およびポンプ
- ・原動機および発電・変電設備等
- ・建設ロボット、情報化機器、タイヤワイヤーロプ、検査機器等

■B5版/約1,200頁(写真・図面多数、表紙特製)

■定価/会 員 43,050円(本体 4,1000円)

非会員 51,450円(本体 49,000円)

■発行予定/平成19年3月19日

■問い合わせ先/社団法人 日本建設機械化協会東北支部

支部たより 151号

平成19年3月30日 社団法人日本建設機械化協会東北支部 〒980-0802 仙台市青葉区二日町16番1号(二日町東急ビル)

電話(022)222-3915 FAX(022)222-3583 ホームページアドレス <http://www.jcmanet.jp/tohoku/> Email: LEJ04206@nifty.com

印刷 (株)セイトウ社

「ダム管理におけるシミュレータ訓練」

東北電力株式会社 土木建築部長 青 沼 正 光



一年前の当巻頭言では、「ダムゲートの自動化と信頼性」と題して、「技術の進歩に伴い、ゲート操作はかなりの部分が自動化されたが、信頼性の問題から、洪水時のゲート操作はやはり最後は人間の判断に、人間の操作に委ねることが最善である。」という主旨のことを述べたが、今回は、そのダムゲート操作に関して、人間の判断と操作技術を常に維持・向上させるための教育・訓練について述べてみたい。

当社には、ハイダム（河川法で規制される高さ15m以上のダム）が30箇所あり、その中で洪水吐ゲートを有しているダムが20箇所ある。これらのダム操作は、河川法に定められた「ダム操作規程」を遵守して行う必要があるが、自然現象で不確定要素の多い洪水を相手に、洪水吐ゲートの開閉操作の他、気象状況の把握、流入量の予測、ダム下流への影響を考慮した放流量の決定、更には河川沿岸の市町村や河川管理者（国・県）への通知等、多くの業務を同時にこなさなければならず、併せて高度な技術と豊富な経験も要求さ

れる。

また、近年、ハイダムの管理は、地域住民の河川管理に対する関心の高まり、河川管理者からの出水時におけるダム操作についての指導も厳しくなっていること、さらに短時間豪雨などの異常気象に対して、より精度の高いダム操作が求められている。万一、洪水による河川災害が発生した場合など、その原因がダム操作に向けられるのは必至であり、日頃から出水に向けたダム操作術の維持向上が必要となっている。

そのため、会津地区にある当社ダム管理センターにおいて、ダム操作訓練用シミュレータ装置を活用し、ダム管理を担当する土木関係社員を対象とした集合教育として「ダム操作訓練教育（基礎、応用、実務）」を平成元年から行っている。基礎教育は入社2年目の社員を対象とし、ダム管理業務に係る基礎知識の理解を図るとともに、訓練装置による基本的なダム操作技術の習得を図るものである。応用教育は中堅社員を対象とし、ダム管理知識と応用

的なダム操作技術を習得するものであり、実務教育は同じく中堅社員を対象とし、シミュレータ装置による訓練を通じ、適切な洪水処理・操作技術の向上を図るものである。さらに、希望者に対しては集合教育の空き日を利用して自主操作訓練も受け入れ、不得意な部分等の反復訓練もできるようにしている。

18年度には新しいシミュレータ装置に更新したが、当装置の一番の特徴としては、ダム管理センターに設置したシミュレータ装置と会津地区の阿賀野川水系に階段状に設置している11箇所ハイダムをリンクさせ、それらのダムにおいても一斉に実出水と同様の訓練ができるようにした点である。

実際には大きな洪水は多くて年に1〜2回しかなく、実践を経験することでのスキルアップは難しいが、この水系連係ダム操作訓練を実施することで、操作ミスが発生した場合に上下流ダムで吸収するための方法や、急激な増水時における水系全体での水位運用訓練を実機を使用しながら実施するこ

とが可能であるため、実践を経験したと同様の効果を得ることができるようになった。

また、訓練者の操作結果の評価は、知識・情報収集力・判断力・操作処理注意力で分析され、訓練者の不足している技術力が即座に判明する仕組みとなっており、その評価を基にディスカッションも可能となっている。

当社では、保守業務をアウトソーシングすることが多くなってきたが、ダム管理については社会的責任上、今後ともコア業務として社員直営で実施していく予定である。

最近、東北地方を通過する台風などによる洪水の発生頻度が少ないのはいいことであるが、ダム勤務者にとってはゲート操作を行う貴重な機会を失うことにもなり、悩ましい問題である。ダム操作は一瞬の判断が明暗を分けることもあり、常日頃からシミュレータにより反復訓練を行うことで、洪水操作経験の少なさをいくらかでもカバーするよう努めている。

ゆきみらい2007 in会津

除雪機械展示・実演会見聞記

J C M A 東北支部 参与 岩本 忠和

1. はじめに

「ゆきみらい2007 in会津」は、今年22回目を迎え、東北地方整備局・(社)日本建設機械化協会・会津若松市など10団体で構成する「ゆきみらい2007 in会津実行委員会」が、《会津で探す雪国の温もり、ひと・絆》をコンセプトに、平成19年2月8日から2月10日まで福島県会津若松市で開催されました。メインイベントとしては

から来場する人の便宜を図っていた。会場となった会津若松市は、福島県は会津盆地の中心地であり、鶴ヶ城をはじめ白虎隊、東山温泉、芦の牧温泉、大内宿、磐梯山、猪苗代湖、野口英雄記念館など近隣を含めた一大観光施設に恵まれた街である。また、国土交通省からは「仙台」とともに「当地ナンバー」「会津」を冠した車が走れるようになった会津地方の中心都市である。

2. 除雪機械展示・実演会

除雪機械展示・実演会は、(社)日本建設機械化協会が主催し、平成19年2月

8日～9日の二日間にわたり、会津総合運動公園駐車場を会場に開催された。これは、冬道の交通を守る除雪機械、除雪作業の効率化をはかるための技術開発等、雪国の安全安心な地域づくりには欠かせない実際の除雪機械・雪関連の計測機器を、地域住民をはじめ除雪機械担当者、道路管理担当者などに見ていただくものである。

(1) 会場の概要

会場は舗装された駐車場のため、中央に分離帯があり、例年であれば会場の真ん中が実演会場となるが、今回は実演会社が5社と少ないこともあり、実演場所は分離帯の南側のみとなった。また、例年会場入り口のアーチ前で開会のセレモニーを実施しているが、今回は出入り口が2箇所設置したことから、会場中央の北側を開会式の



写真2 小野会長の開会式挨拶



写真1 会場全景

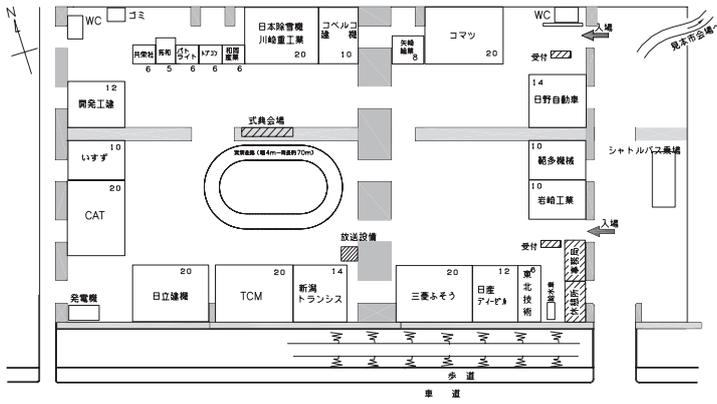


図1 会場平面図

セレモニー会場とした。(写真1)
 開会式は2月8日午前10時45分から始まった。開会式には、地元幼稚園児も加わり、テープカットやエコ風船を飛ばすなど、地元密着型で行われた。
 まず主催者を代表して(社)日本建設機械化協会小野和日児(オノカズヒコ)会長から挨拶があり、つづいてテープカットを行った。テープカットには坪香 伸東北地方整備局長、福島県知事(代理)、会津若松市長など7名と幼稚園児2名の計9名で行った。テープカッ

(2) 出展機械
 出展された除雪機械・計器類は21社86台である。このほか、事務局隣の休憩室の一角にロータリー除雪車の模型をセットし、発泡スチロールでできた雪を飛ばす実験を見学できるようにしている。また、出展会社のなかにも自社休憩室に模型を展示実演したり、ビデオで実際の除雪現場を再現するなど、自社製品のPRに努めていた。展示機械の主な特徴等を感じるままに記してみると次のとおりである。(写真6)

トと同時に花火が打ち上げられ、幼稚園児によるカラフルなエコ風船が華麗に舞上がった。すかさず南側実演会場に待機していた除雪機械6台が唸りをあげてデモ行進し、快晴の空のもと展示会が幕を開けた。(写真2・3・4)
 今回の展示会場は会員会社20社と国土交通省東北地方整備局の合計21ブースと、事務局関連の建物から構成されている(図1参照)。実演会用に準備した雪は連日の好天でほとんど溶けてしまい、大型機械の実演は不可能で、展示走行と解説で見学者にPRすることになった。一部の小型機は少ない雪を有効に利用し、実演会を盛り上げていた。



写真4 開会式での風船



写真3 開会式のテープカット



写真6 模型のロータリー車に見入る幼稚園児



写真5 開会式での除雪機械のデモ



写真7 東北技術事務所で開発した雪を飛ばさないプラウ



写真8 ロータリ除雪車のデモ



写真9 小型ロータリ除雪車のデモ



写真10 除雪ドーザのデモ

(イ) 除雪トラック

除雪トラックは6社8台出展されていた。殆どのトラックが世界最先端を誇るといふ「新長期排出ガス規制」に適合したエンジンを搭載したシャシに、プラウやトラックグレーダを装着した機種を展示。プラウは除雪時は最大幅にするが、回送時は折りたたんで一般交通に支障が無いようにする機構を取り入れたもの、除雪時プラウの進行角度可変形のものなどである。また、東北方整備局から参考出品した除雪プラウは、交差点や家の出入り口などでは排雪を停止するサイドシャッター付

となつてゐる。プラウ全体としては、雪を遠くへ飛ばさない線形のプラウが開発の主流になりつつある。(写真7)

(ロ) ロータリ除雪車

ロータリ除雪車は作業幅2.2m級が3台、1.3m～1.5m級が5台、0.8m～1.2m級が6台、アタッチメントタイプとしてロータリ装置2組・スノーブルーム1組出展された。大型機については、新しいメカニズム等の採用は目につかなかつたが、エンジンの排ガス対策や走行装置のHST装置の改善、ロータリ装置シユートの改善などが多

かつた。中型機についても、エンジンの排気ガス対策をメインに、HST装置や6輪駆動装置の採用、ロータリ装置の油圧駆動採用、汎用トラクタにロータリ装置を架装しコストダウンを図つたものなどが目に付いた。小型機(ハンドガイド式)は機構的にはあまり新しい発想のものが見当たらなかつたが、シユートが詰まつた場合の安全対策、ロータリ装置に子供らが間違つて触れた場合、巻き込みを防止する装置などが特徴と言える。(写真8・9)

また、アタッチメント方式として開発した除雪装置としては、路面電車等で利用されるブラシの回転で除雪する幅1.47mのスノーブルームが注目を集めていた。

(ハ) 除雪ドーザ・スノーローダ

除雪ドーザ・スノーローダは大型機(15t級以上)が6台、中小型機が7台出展された、大型機、小型機ともエンジン性能をアップ(特に排ガス対策)させ、マルチプラウ、アングリングプラウ、多目的バケット、ワンタッチカプラなどアタッチメントの改良に力を入れてることがわかつた。(写真10・11)

(二)凍結防止剤散布車・散布装置
 凍結防止剤散布車は、オールシーズン利用可能なシャシを採用し、冬は除雪装置と凍結防止剤散布装置を、冬季以外はフロントアタッチメントを換えて除草機や排水ポンプに、また標識車や散光式警告装置にするなど、多機能化と走行性の向上に力を入れていた。
 散布装置は、車載形が主であるが、運転室内で全てコントロール可能な構造になっており、十数年前の荷台の上で人力操作した装置からは考えられないほど進歩を遂げている。(写真12)



写真11 小型除雪ドーザ

(ホ)その他除雪関連機器
 車両系出展物が多かったが、機器類の出展ブースが4社ありました。光波式積雪計、路面凍結検知器、大型散光式警光灯、超高輝度LED小型グリル灯、3次元マシンコントロールシステム、次期型建設機械施工管理システムなどで、ITやLEDなど最新の技術を取り入れたシステムや機器が注目を集めていた。
 (ヘ)今回出展の特徴
 出展した機械をみると、例年会場で見慣れていたはずの除雪グレーダ類が



写真12 凍結防止剤散布車



写真13 克雪・利雪見本市開会式風景



写真14 克雪・利雪見本市会場風景

1台も出展されていないのに驚きました。また、これまでは除雪機械というよりは建設機械としてのイメージが強かった油圧ショベルが数台出品されていたのも摩訶不思議な気がした。それから、これまでは大型機しか出品していなかった大メーカがハンドガイド式を出品するなど、暖冬の影響なのか、社会が変化しているのか知らないが、驚くことが多々ありました。

3. 克雪・利雪見本市

克雪・利雪見本市では、「出会いの里、

会津」をキーワードとして、企業や団体、行政などから「雪に関する技術や情報」および「地域づくりの事例」などについて紹介し、会津から「人にやさしい雪国」を全国に向けて発信するものである。(写真13・14)

出展は屋内45ブース、屋外4ブースの計49ブースである。機械関係者の立場として見ると、東北芸術工科大学の「未来型除雪機械」4点、東北地方整備局東北技術事務所のブースに展示している「雪にかかわる取り組み事例写真(1950年以降の雪関係の技術開発写真)」、各社で展示している「融雪装

置」などが目についた。(写真15)



写真15 未来型ロータリ除雪機

4. その他のイベント

「克雪・利雪シンポジウム」は、2月8日「会津風雅堂」で開催され、登山家田部井淳子氏や東北工業大学教授沼野夏生氏の基調講演の後、活発なパネルディスカッションが行われた。会場（会津風雅堂）の立派さに驚いた次第である。

「ゆきみらい研究発表会」は、2月9日東山温泉「御宿東風」で開催された。パネルディスカッションの後、①観光・景観・風土から見た雪国の再評価と発見②平成18年度豪雪から学ぶもの③冬

季の道路管理を考えるの3テーマに、調査研究を行う技術者・道路管理者と道路を利用する地域の人々がそれぞれの研究発表に熱心に聞き入っていた。

5. おわりに

今回の除雪機械展示・実演会は全国的な暖冬の影響か、2日間とも良い天気に恵まれ、主催するほうはもちろん、見物者にも楽な開催と相成った。それに「克雪・利雪見本市」の会場では会津地方の観光物産コーナーなどもあり、会場の外には会津地方の生そば、喜多方ラーメン、だんごその他の名物の屋台が軒を連ね、連日賑わいを見せていた。しかし出展各社の熱意とは裏腹に、雪が無いうえ寒くは無いし、迫力満点の除雪機械の実演を予定していた担当者にとっては拍子抜けとなったに違いありません。会場の準備・設営・運営ともうまくできたし、出展会社数や機械台数も会場に見合ったもので、1件の事故も無く終了したことは何よりでした。担当した出展各社の皆様、協会事務局の皆様々に深く敬意を表したいと思います。

来年度は北海道の空の玄関、千歳市で開催されます。除雪機械展示会がどんな発展をするか期待してペン置きます。

ゆきみらい2007
in会津

欄 外 ト ピ ッ ク ス

トピックス1

例年除雪機械展示会場の各ブースには、各社趣向を凝らした飲み物、地場産食品、工場所在地産のお土産、各種歓迎イベント？を来場者用に準備していた。しかし、今回はアルコール類持込絶対禁止となったため、派手な酒盛りは影もなく、ただひたすらお茶とコーヒーをすするばかり。

そのためか、生そばやうどん、喜多方ラーメン、会津の煮込みなどが大うけ、1日200食限定の喜多方ラーメンが、会津若松の『煮込み』を抜き一番人気で、あっという間に店じまいしたとか。

トピックス2

開会式には地元幼稚園児に参加していただいたが、お礼として駄菓子類と除雪機械の模型をお渡ししたが、それを聞いてきたと思われる幼児を抱いた若きご婦人が受付に現れ、模型をくださいとって離れない。受付嬢は「アンケートをお書きくだされば差し上げます」と言うと、書きます書くから頂戴と会場でなく受付でしっこく粘って困らせておりました。

トピックス3

克雪・利雪見本市会場をオープン前に見学していた某Y氏、観光物産館で美味そうな会津の地酒を見つけた。準備していた係員の女の人に、「これ1本ください」というと、「まだ開館していないので売るわけにはいきせん」。某Y氏曰く「オープンしてから売ったといえいいじゃないか」とまんまと購入しました。

「1・2級建設機械施工技士」

国家資格取得にチャレンジしませんか!

—— 平成19年度建設機械施工技術検定試験のご案内 ——

平成19年度1・2級建設機械施工技術検定試験を次のとおり実施いたしますので、建設機械操作施工に従事している技術者の皆さんは、資格取得を目指してみませんか。

この資格は施工技術の向上を図るため、建設事業の建設機械施工に係る技術力や必要な知識を検定するもので、高い評価が得られ、ご本人と所属の企業にとって大いに役立ちます。

(以下の記載内容は概略ですので、詳細は当協会ホームページを参照又は電話によるお問合せ願います。)

1 申込み方法

所定の受験申込み用紙に必要事項を記載し、添付書類とともに申込み受付期間に郵送申込み。

平成19年2月中旬から受験申込み用紙など(「受験の手引」一式)を当協会等で販売いたします。

「1級受験の手引」1部 600円(送料 200円)

「2級受験の手引」1部 500円(送料 200円)

問合せ先、販売場所は裏面末尾の一覧表のとおりです。

2 申込み受付期間

平成19年3月15日(木)から4月13日(金)まで

*インターネット申請も(第一次申請3月31日まで)可能であり、申込希望者は、「受験の手引」を購入せずに、当協会ホームページをご覧ください。

3 試験日

学科試験：平成19年6月17日(日)

実地試験：平成19年8月下旬から9月中旬

*実地試験は、学科試験合格者のみ受験でき、日程は8月上旬に決定、通知いたします。

4 受験手数料

1級学科試験：10,100円

2級学科試験：1種別につき10,100円(2種別は倍)

1級実地試験：

操作施工法2科目と組合せ施工法の場合27,800円

操作施工法1科目と組合せ施工法の場合21,400円

組合せ施工法のみの場合15,000円

2級実地試験：1種別につき21,600円(2種別は倍)

5 受験資格

- (1) この試験は、学科試験と実地試験に区分され、学科試験に合格した方が実地試験を受験できます。
- (2) 学歴等の資格区分に応じて一定の実務経験が必要であり、基本的な資格は下表のとおりです。

学歴等の資格区分		1級 (必要な実務経験年数)	2級 (必要な実務経験年数)
大 学	指 定 学 科	3 年 以 上	1 年 以 上
	指 定 学 科 以 外	4 年 6 月 以 上	1 年 6 月 以 上
短 期 大 学 高 等 専 門 学 校	指 定 学 科	5 年 以 上	2 年 以 上
	指 定 学 科 以 外	7 年 6 月 以 上	3 年 以 上
高 等 学 校	指 定 学 科	10 年 以 上	3 年 以 上
	指 定 学 科 以 外	11 年 6 月 以 上	4 年 6 月 以 上
上 記 以 外	—	15 年 以 上	8 年 以 上
資 格 取 得 者 級	高 等 学 校	指 定 学 科	通 算 8 年 以 上
		指 定 学 科 以 外	通 算 9 年 以 上
	そ の 他	—	通 算 12 年 以 上

- * 1級の実務経験には指導監督の実務経験を1年以上含む必要があります。
- * 1年以上の専任の主任技術者の実務経験を有する場合は、受験資格が緩和されます(1級のみ)。
- * 2級については、2種類の建設機械を受験する場合の必要業務経験年数です。
- * 「指定学科」は、この試験に関し大学、高等学校等における機械工学、土木工学、都市工学等専門的な分野の学科を言い、これらを履修した者の受験資格は緩和されます。

ご 注 意

最近、当協会が行うこの技術検定の申込み手続きの代行業務やまぎらわしい名前の講習等の勧誘を行う民間団体がありますが、当協会とは関係がありません。当協会は、電話等による技術検定等の直接勧誘又は案内を行っておりませんし、他の機関に受付等の業務の一部を依頼することはありません。お申込み、問合せは、ご本人が直接当協会に行ってください。

問合せ先、「受験の手引」請求先：(社)日本建設機械化協会 東北支部
 TEL 022-222-3915 URL <http://www.jcmanet.or.jp>



蒼穹に聳える富士山（箱根・大湧谷から撮影）

箱根に遊ぶ

豊國工業株 高橋 馨

二月初旬、用事があって上京し、序でに箱根へ行ってきた。序でと言ったが、実は雪の富士山を眺め、カメラに収めるのが目当てだった。

三國一、いや日本一の富士山は、遠く近く四方から秀麗な山容を眺めることができる。では、どこが一番よいか？昔の人は、甲斐でするより駿河よい、と言っていたが、道路網が発達した現在では良いスポットが各所にある。そして四季折々に姿を変えるが、やはり、真白き富士の根……と歌われるように雪の富士山が良い。私も旅行などの折にいろいろな場所から富士山を眺めてきたが、雲がかかったり、晴れても霞んでいることが多く、くつきりとした姿を見たことは殆どない。一度、澄んだ青空にくつきりと聳える富士山を眺めたいと思っていたので、雪が多くて大気が澄むこの時期を捉え、富士山を近くに望む箱根を訪れた。

前の日の夕方、小田原から箱根登山

鉄道に乗り、強羅に泊まった。嘗ては箱根七湯と言われていたが、近年の観光ブームで、この強羅など新たな温泉が開発されて現在は箱根十八湯となっている。翌朝、予報どおりの快晴になった。ケーブルカーで早雲山まで行き、ロープウェイに乗り換えた。スマートなゴンドラに揺られて空中散歩、やがて右手前方に真っ白な富士山が現われ、目を瞠った。中継点の大湧谷で下車、見晴らしの良い場所を探して富士山にカメラを向けた。しかし、よく見ると真っ白なのは中腹あたりまでだ。今は冠雪が最も多い季節、例年なら麓近くまで白くなっている筈だが、暖冬で雪が少ないのだろう。ここからロープウェイを乗り継いで芦ノ湖の北岸の桃源台へ下る予定だったが、ロープの交換作業のため運休しているとのこと。代行バスに乗り、急な坂道を下って湖畔の桃源台に着いた。春未だきこの季節の静謐な箱根の大自然、停泊している遊

覧船が目障りだが、その遊覧船に乗った。10時に出航、(湖なのに)海賊船と称して、それらしい装いをこらしている。まだオフシーズンだが、さすがは天下の箱根、かなりの観光客で賑わっている。船は湖面を滑るように進み、やがて左手にのつべらと高い駒ヶ岳が見えてきた。眺望が素晴らしい山頂までロープウェイがあるが、最近では利用客が少ないので廃止される予定だという。30分ほどで箱根町に到着して下船、どこからか「箱根の山は天下の険……」のメロディが聞こえてくる。滝廉太郎の「箱根八里」、私も昔はよく口ずさんだ。藩政時代、箱根路は小田原から箱根まで四里十町、箱根から三島まで三里二十町で合わせて約八里、それゆえ「箱根八里」と称された。

少し行くと、左手に国道1号に面した広場があり、ここが正月恒例の箱根大学駅伝のゴール(往路)とスタート(復路)の場所である。広場の湖畔寄りの所に「箱根駅伝栄光の碑」が立ち、その脇に歴代の優勝校の名を刻んだモニュメントが立っている。最近ではマラソンや駅伝が盛んに行われ、テレビで放映されることが多いが、箱根大学駅伝は人気が高く、視聴率は30%に達しているという。今年も順天堂大学が往路・復路を制して完全優勝を果たした

が、その勝因は往路5区を走った今井正人(福島・原町高出身)が4分9秒差の5位から追い上げ、首位を奪ってゴールしたことが大きい。小田原から箱根まで23.4^キ、標高差約700^メを1時間18分05秒で走り抜けたのだからスゴイ!

話が駅伝に寄り道したが、そのあと「箱根関所跡」を見学した。正確に言うとう、関所跡に復元された建物や展示品を見たわけで、全国的に関所では「入鉄砲・出女」を厳しく取り締まったといわれるが、箱根関所では鉄砲改めはせず、出女の調べに重点がおかれたという。元箱根へ出て、旧街道杉並木の近くの店で昼食をしたあと、箱根神社を訪れた。大きな一ノ鳥居をくぐり、老杉に囲まれた参道を進むと小高い山の中腹に権現造、朱塗りの社殿が立っている。757(天平宝字元)年、万巻上人が駒ヶ岳の神仙宮、般若寺、神山の神宮の三つの寺社を統一してここに祀ったのが始まりと伝えられている。遠く奈良時代にこの嶮岨な箱根山中に信仰の歴史が刻まれていたことに驚きを覚えた。

箱根には美術館など多くの見所があるが、今夜のうちに仙台に帰ることにしていたので、2時過ぎのバスで強羅へ出て、帰途についた。好天に恵まれて、

待望の富士山を眺めることができたことに大いに満足し、夕方、東京に戻った。ところが、東北新幹線が不通のこと、全くの想定外でビックリ!福島・宮城県下の強風のため午後から運休し、運転再開の見通しがたないという。

仕方なく上野へ行き、スーパーひたちに乗ったが、いわき止まり。普通列車に乗り換え、原ノ町で仙台行きに乗り継いで0時近くに帰宅した。

旅行が好きで、年に数回は国内を旅行している。事情があつて海外へは暫らく出掛けないが、これからはまた行きたいと思っている。私にとって旅行の楽しみは、観て、撮って、飲んで、味わうことである。当然ながら健康が必須条件だが、いわ

ゆるる足腰、とりわけ脚力が大事だ。30数年前、白川ダムに勤務していたころ始めたジョギングを今も続けているのは、そのためにほかならない。



箱根駅伝栄光の碑 (箱根町・芦ノ湖畔)

いきいき東北・豊かな未来、ゆめをつなぐ新技術

「EE東北'07」 新技術展示会

開催期間

平成19年5月30日(水)
～平成19年5月31日(木)

開催場所

夢メッセみやぎ

■お問い合わせ先

社団法人日本建設機械化協会東北支部

〒980-0802 仙台市青葉区二日町16番1号(二日町東急ビル)

TEL.022-222-3915 FAX.022-222-3583

E-mail: LEJ04206@nifty.com

「EE東北'07」

日時：2007.5/30(水) 10:00～16:30

2007.5/31(木) 9:30～15:00

場所：夢メッセみやぎ (仙台市宮城野区港3丁目1-7)

内容：新技術展示会

新技術討論会



夢メッセみやぎ

支部行事報告

建設部会

日 時：1月9日(火) 16時～17時
 場 所：東北支部会議室
 参加者：歌代明部会長ほか8名
 議 題：技術部会との合同会議につ
 いて

支部たより安全コーナーに
 ついて

ゆきみらい担当者会議

日 時：1月17日(水) 13時～15時
 場 所：東北地方整備局 会議室
 出席者：山崎晃施工部会長、遠藤事
 務局長
 議 題：2007in会津進行状況等
 の確認

ゆきみらい2007in会津・ 除雪機械展示・実演会

日 時：2月8日(木)10時～9日(金)15
 時

場 所：福島県会津若松市 会津総
 合公園駐車場

入場者数：3,800名

新機種発表会

日 時：2月21日(水) 13時30分～16時
 場 所：青森市 青森観光物産館
 「アスパム」

名 称：「土のリサイクルセミナー」
 参加者：青森県内公共事業関係機関
 及び建設業関係者 約60名

「EE東北」作業部会

日 時：2月26日(月) 14時30分～15
 時30分
 場 所：宮城県建設産業会館
 出席者：山崎晃施工部会長ほか1名
 議 題：「EE東北'07」実施要領
 出展申し込み状況等



お詫び

前回第150号の『150号を迎えるにあたって』で

1. 高橋馨・岩本忠和両氏を広報部会長と標記しましたが、広報部会長制になったのは125号からでした。したがって支部たより編集に御尽力頂いた方は歴代の幹事（現行企画部会員相当）の方々が該当します。
2. 創刊題字は神谷局長に揮毫していただきました。

以上

ご寄稿いただいた方々及び会員の皆様には大変ご迷惑おかけしました。

くれぐれもお詫び申し上げます。

広報部会長

●会員紹介について今号は割愛させていただきます。

- | | |
|--------------------------------|--------------------------|
| (9) 手持ち機械の状況 | (10) 機械リース元一覧 |
| (11) 労務者の確保計画 | (12) 工種別労務者配置計画 |
| (13) 建設副産物の搬出地 | |
| (14) 建設副産物の搬出及び資材等の搬入に関する運搬計画書 | |
| (15) 品質確保体制（品質管理のための人員体制） | |
| (16) 品質確保体制（品質管理計画書） | (17) 品質確保体制（出来形管理計画書） |
| (18) 安全衛生管理体制（安全衛生教育等） | (19) 安全衛生管理体制（点検計画） |
| (20) 安全衛生管理体制（仮設置計画） | (21) 安全衛生管理体制（交通誘導員設置計画） |
| (22) 誓約書 | (23) 施工体制台帳 |
| (24) 過去に施工した同種の公共工事名及び発注者 | |

(3) 低入札価格制度的確な運用による落札者の決定

調査の結果を踏まえ、例えば、次のような場合は、契約内容を的確に履行できないおそれがあると認め、法令に基づく所定の手続を経て、次順位者と契約

- ・品質が確保された取引実績を過去の契約書等で証明できない場合
- ・交通誘導員の確保や品質確保に関する各種試験等に要する費用・体制を見込んでいない場合 等

3. 一般競争参加資格として必要な同種工事の実績要件の緩和

一般競争入札の参加資格の一つである「同種工事の施工実績」として、当面、最大で過去15年以内の施工実績まで対象とすることができるよう要件を緩和

（東北地整は平成19年4月から適用、年度内の取り組みも可能）

4. 「入札ボンド」の導入拡大

「入札ボンド」について、地方公共団体等における導入状況を踏まえた対象拡大を図る

（東北地整では、WTO対象以外の一般土木工事についても試行）

5. 公正取引委員会との連携強化

国土交通省が発注機関として入手する低価格入札案件情報や建設業許可部局が実施する立入調査の結果等について、必要に応じ公正取引委員会に対し通報等を実施するものとし、国土交通省と公正取引委員会との連絡会議（平成18年10月12日に第1回開催）を随時開催することにより、連携を一層強化。

6. 予定価格の的確な見直し

最近の入札価格の動向を踏まえ、施工形態の合理化による影響を把握するため、特別に実態調査を実施するとともに、その結果を迅速かつ的確に予定価格（積算基準）に反映

※平成18年度中に実態調査に着手し、その結果を踏まえて積算基準に反映

以上、国土交通省の取り組みや東北地方整備局の運用を紹介しましたが、入札・契約制度はめまぐるしく変化しています、こまめに本省や、地方整備局のホームページ等を確認していただき、最新の情報に基づき、対応されるようお願いいたします。

事で予定価格が2億円以上のもの。なお、その他の工事についても試行可能

(2) 技術評価点の拡充

- ・技術評価点に「施工体制評価点」30点を新たに追加し、品質確保のための体制その他の施工体制の確保状況に応じ、発注者が求める施工内容をより確実に実現できるかどうかを評価
- ・発注者が示す標準案以外の施工方法等に関する技術提案に対し、10～50点の範囲で付与している技術提案加算点を、10～70点の範囲で付与（簡易型総合評価方式では10～30点を10～50点）
 （東北地整は試行においては、簡易型10→30点、標準型20→40点、高度技術提案型30→50点さらに、「施工体制確認型総合評価落札方式」以外の総合評価落札方式の一部の工事においても、技術提案加算点を簡易型10→30点、標準型20→40点、高度技術提案型30→50点）

2. 品質確保ができないおそれがある場合の具体化（特別重点調査の試行実施）

- ・予算決算及び会計令（昭和22年勅令第165号）第86条に基づき、調査する際、極端な低入札者について、特に重点的な調査（特別重点調査）を実施

(1) 対象工事（特別重点調査の対象者の絞り込み）

予定価格2億円以上の工事で、その者の入札価格が調査基準価格を下回り、かつ、入札価格の積算内訳である費目別金額を予定価格の積算の前提とした費目別金額で除して得た割合が一定割合を下回る入札をした者を対象に、(2)の厳格な調査を実施

（東北地整は工事の全てを対象、該当以外の低入札対象工事は重点調査を設定。低入札価格調査及び特別重点調査結果は、公表）

（重点調査）土木機械設備工事の場合

予決令第85条に基づく基準価格を下回る価格で入札を行った者に対し予決令第86条の調査（低入札価格調査）を実施する。ここで、基準価格は、予定価格の10分の8とする。

（特別重点調査）

直接工事費で75%、共通仮設費で70%、現場管理費で60%若しくは一般管理費で30%

ただし、新技術・新工法等によるコスト縮減により一定割合を下回る場合は、適用対象外

直接工事費とは直接製作費（材料費、機器単体費、労務費、塗装費、直接経費）、直接工事費（輸送、材料費、労務費、塗装費、直接経費、仮設費）をいう。現場管理費とは間接製作費（間接労務費、工場管理費）、間接工事費（現場管理費、据付間接費）、設計技術費をいう。

(2) 特別重点調査の試行実施

- ・入札参加者が作成した積算内訳書が、品質の確保がされないおそれがある極端な低価格での資材、機械、労務の調達を見込んでいないか、
- ・品質管理体制、安全管理体制が確保されないおそれがないか 等を調査し、厳格に審査

（例）他社から購入：過去1年以内に販売された実績のある単価以上か

自社製品：過去1年以内に第三者と取引した販売実績額又は製造原価以上であるか

自社労務者：最低賃金以上、過去3ヶ月以内に支払った実績のある賃金以上か

下請け労務者：最低賃金以上、過去1年以内の同様工事の労務単価以上か

（特別重点調査で提出を求める資料）特別重点調査実施の連絡の翌日から7日以内に提出

- | | |
|------------------------------|---------------|
| (1) 当該価格で入札した理由 | (2) 積算内訳書 |
| (3) 下請予定業者等一覧表 | (4) 配置予定技術者名簿 |
| (5) 手持ち工事の状況 | |
| (6) 契約対象工事箇所と入札者の事務所、倉庫等との関係 | |
| (7) 手持ち資材の状況 | (8) 資材購入予定先一覧 |

Ⅱ. いわゆるダンピング受注に係る公共工事の品質確保及び下請業者へのしわ寄せの排除等の対策について（H18.4.14国土交通省）を基本とした対策

1. 適正な施工の確保の徹底

- (1) 低入札価格調査対象工事に係る重点調査の対象拡大及び調査結果のホームページにおける公表
- (2) 下請業者への適正な支払確認等のための立入調査の強化等
- (3) 工事コスト調査の内訳の公表
- (4) 発注者の監督・検査等の強化
 - ① 予定価格2億円以上の低入札価格調査対象工事について
 - ・モニターカメラを工事現場に設置し、工事全体の施工状況を把握
 - ・発注者の指定する不可視部分の出来高管理を、受注者がビデオ撮影により行い、発注者に提出
 - ② 政府調達協定対象工事における低入札価格調査対象工事について
 - ・契約図書に示された施工プロセスで施工管理が適切に行われているかを発注者が常時確認
 - ③ 低入札工事における品質管理の強化（土木機械設備工事、東北地整土木工事）
 - 調査基準価格を下回る価格で落札した場合は、品質管理項目の頻度、計測数を2倍で実施
- (5) 受注者側技術者の増員の対象拡大
 - ・ 予定価格2億円以上の低入札価格調査対象工事について、専任の監理技術者の配置が義務付けられている場合において、過去2年間に70点未満の工事成績評定を通知された企業等である場合には、専任技術者を増員して配置（東北地整は低入札価格調査対象工事の全てを対象）
- (6) 低入札価格調査制度対象工事受注期間の競争参加要件の追加
 - ・ 低入札価格調査制度対象工事を受注している期間においては、品質低下を招かないよう当該工事に専念させるため、入札参加要件を付加（一般土木、鋼橋上部工、建築を対象）。過去3箇年の工事成績の平均が74点未満かつ65点未満の工事がないこと。（低入件数が複数の場合、上乘せ）
- (7) 指名停止措置の強化
 - ・ 低入札価格調査対象工事における粗雑工事については、指名停止期間を最低3ヵ月に強化

2. 適正な競争環境の整備

- ・ 前工事の単価による後工事の積算

3. ダンピング受注対策地方協議会の開催

- ・ 各地方ブロック内の発注者間のダンピング受注に関する意見交換等の場として18年度早期に開催（東北地方公共工事適正化推進協議会を設置）

4. その他検討事項

- 入札バンドや総合評価における価格評価方法の見直し等を検討

Ⅲ. 緊急公共工事品質確保対策について（H18.12.8国土交通省）を基本とした対策

1. 総合評価落札方式の拡充（施工体制の確認を行う方式の試行実施）

- ・ 新たに、施工体制が確実に確保できるかを審査要素に加味（施工体制評価点の創設）
- ・ 技術提案の内容に応じて与えられる技術提案加算点の上限を引き上げ

(1) 対象工事

- 原則として、一般土木工事、鋼橋上部工事、プレストレスト・コンクリート工事及び港湾空港等工

国土交通省コーナー

公共工事の品質確保対策について

東北地方整備局 企画部 施工企画課

公共工事の品質確保に関しては、「公共工事の品質確保の促進に関する法律」（平成17年4月1日施行）並びに「国土交通省直轄工事における品質確保促進ガイドライン」（平成17年8月26日閣議決定）を踏まえ、価格以外の多様な要素も考慮し、価格と品質が総合的に優れた内容の契約がなされるよう取り組まれてきました。

しかし、大規模工事において、低入札価格調査制度調査対象工事が増加傾向にあり、いわゆるダンピング受注によって公共工事の品質の確保に支障を及ぼしかねないだけでなく、下請けへのしわ寄せ、労働条件の悪化、安全対策の不徹底等が懸念されることから平成18年4月以降さまざまな対策が取られています。いわゆるダンピング対策について、国土交通省の取り組みと東北地方整備局の運用を紹介します。

I. 東北地方整備局における低入札価格調査制度による調査対象工事の状況

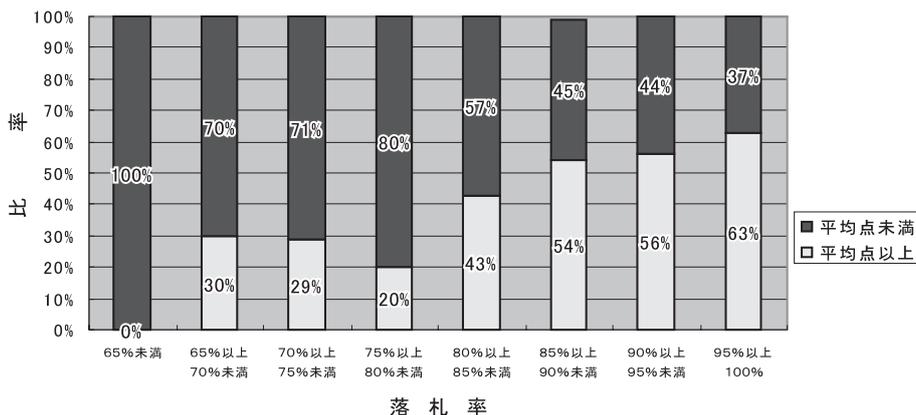
○発生状況 H18.11.30現在（速報値）

	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度
入札件数	2,252	2,309	1,806	1,721	1,599	1,080
調査件数	56	54	59	55	104	89
割合(%)	2.5	2.3	3.3	3.2	6.5	8.2

○工種別

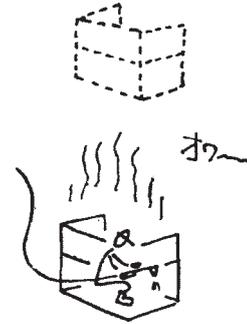
	一般 土木	A S 舗装	鋼橋	P C	建築	維持 修繕	機械 設備	電気 設備	通信 設備	港湾	その他	計
H18	28	4	12	6	9	7	2	5	—	—	16	89
H17	16	1	14	7	14	10	7	9	10	4	12	104
H16	4	2	—	1	7	4	4	3	11	1	18	55

工事成績評定と落札率の関係



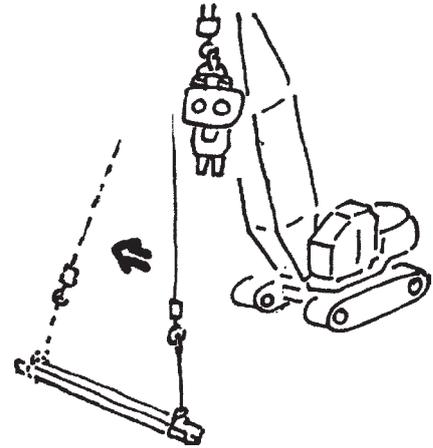
5. 一生懸命やったのに

やはり解体工事。立坑踊場を埋戻と並行して解体した。
ガス切断夢中になって全部切断したら自分も一緒に下へ落ちていってしまった。
そんな馬鹿なと思うでしょうが、これも本当の話です。



6. なんでひっくり返るの

本日はSPの杭打ち作業。
午前中とまったく同じ位置で同じ場所のSPを吊り込んだのに50tクローラクレーンがひっくり返った。
午前中のオベと午後のオベが変わっていた。変わったオベは作業に疑問を思わずSPを一気に吊上げてひっくり返りました。なぜでしょう？
SPの頭のくわえる位置が違っただけなのです。つまり、東側を頭にしたのが西側を頭にしただけなのです。
その位置が微妙に作業半径を変えた。だけなのです。
午後のオベは、安心感に浸りながら鼻歌交じりで巻き上げたのでしょ。う。
「あっとおどろく、タメゴロウ」でした。



以上の6項目で

- | | | |
|---------------|---|--------------------------|
| 1つも疑問に思わなかった人 | → | すぐにこの業界から足を洗いましょう。 |
| 1つも笑えなかった人 | → | すぐにその道10年の先生へ診てもらいましょう。 |
| 思わず笑った人 | → | このネタをさらに誇大化して隣の人に広めましょう。 |

みなさん、どう感じられましたか？

私なりの考察は以下のとおりです。

1. 人（聞き方）によっては、いろんな見方（考え）があるということ。
2. 目的(目標)を教えないと思うようには進まないということ。
3. 何が危険で緊急であるかということ。
4. 夢中になれば、周りが見えなくなるということ。
5. 一人作業の危険性。
6. 思い込みや慣れの恐ろしいこと。

日頃、口先だけで緊急時の対応をしているとこういう現象がおきます。

クレーンオペは作業効率を考え、なるべくクレーンを移動させなくて済む位置に機械を据付けました。ところが作業していく過程で作業半径がぎりぎりの荷を吊ってしまい、オペは吊れるだろうと判断し、荷取をしました。

その時です。アウトリガーが浮き上がったのです。それを見ていたある作業員が浮いたアウトリガーと敷板の間にキャンバーを咬ませたのです。

彼なりに浮き上り防止を考えたのでしょう。けれど、クレーンオペはまっつ青でした……

2. ここ掘れワンワン

φ1000mm手掘り推進、切羽でのことです。

当時先山(世話役)が、ある作業員を捕まえて「俺、昼から用事があるからお前、昼からここを掘っておけ」という指示を出しました。

指をさした部分が、約50cm位の花崗岩の転石の真ん中。その周りは10cmくらいの石でした。

「足に石を落さないよう気をつけて掘れ」の指示のもと昼からの作業が始まりました。夕方、世話役が行ってみると自分が指示した状態とぜんぜん変わっていませんでした。

世話役、頭に血が上って作業員を怒鳴りつけたのですが…作業員はまじめな方で世話役が指差した1点をひたすらピックのノミの刃を5本壊すほど突いてヘトヘト状態だったんです。



ココ掘れ
ワンワン

3. 舟乗ってこい

同じく手掘りの現場、切羽で異常出水。世話役止水するのに一生懸命。後方作業員に「土のう、ウエス持って来〜い!!!」作業員「長靴に水が入るので行けませ〜ん」、世話役「バカヤロー!!舟乗ってこーい!!」

作業員なぜかズリトロに乗って手で漕ぎ始めた。途中で「漕ぐものがないのもうこれ以上、前へ進ませ〜ん」管路途中で立ち往生、坑内大騒ぎ。



4. なんで爆発するの

本日は設備の解体工事。KYもバッチリ行い、始業点検もOK。

初めは切断箇所から迂回してたつもりのホースが、作業している間にタンク下の切断箇所に入り込み、そこに火を入れて大爆発。

切った本人呆然と立ち尽くすのみ。

「何でこうなるの???'」



安全について

建設部会

前号までもこのコーナーで様々な安全講話がなされてきた。

もうこれ以上、書き留めることがないくらい書かれてきたように思われる。

が、事故は未だに繰り返されている。まるで、終わりのない戦いのように。

現代の建設業において（建設）機械が占める工事の比重は大きく、機械なしに工事が施工されることはまず有得ないと言っていい。

このコーナーを読まれているあなたに聞きたい。

現場の中で機械は必ず壊れると認識して作業している作業員は何人いるだろうか？

また、人間は過ちを必ず犯すと認識して管理している管理者は何人いるだろうか？

機械の性能は年々向上し、壊れることは少なくなり、そのため始業点検（メンテ）することなく稼働させてはいないだろうか？

機械の操作が簡素化され使いやすくなった分、無資格で作業して（させて）いないだろうか？

機械の進歩に対して、点検項目にギャップがないだろうか？

また、点検とは名ばかりで点検項目にチェックマークをつけることで点検したことにはしていないだろうか？

本来の目的以外の使用をさせていないだろうか？

どうですか？心当たりはないですか？

逆行するようだが、もはや設備面をこれ以上UPさせても かえって働く者の緊張感を奪ってしまっているのではないだろうか？

現在、管理者のおかれている立場を考えると小学校の先生のごとく「これはダメ、それもダメ」と手取り足取りの指導をせねばならないだろう。

これほどまで情報が豊富になった今でも事故が減らないのは、類似作業における事故検証を作業する当事者が検証（検討）していないからではないか？

類似作業の事故例を検証（検討）するKYのやり方によって事故を減らしていきたいものだと考えている。

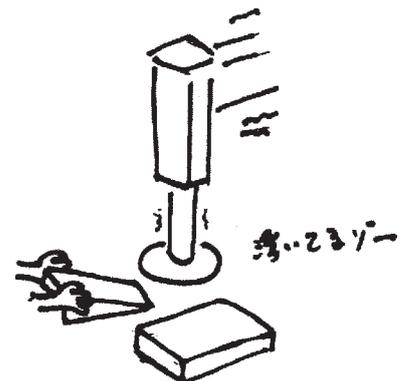
下記に今まで経験したエピソードを個条書きで記します。皆さんで検討してみてください。

1. クレーンアウトリガー浮き上り防止

さてこの表題でイメージされるのはどんなことでしょうか。

通常であれば、クレーンのアウトリガーは堅固な地盤へ設置し定格荷重を超えた吊荷を吊ってよもやアウトリガーが浮き上ることのないようにする。

のが常識でしょうか？昔こんなことを目の前にしたことがあります。



場等は回数を増やす等の改善を求められている。

(8) 講習会に期待するもの

現場代理人を対象に「除雪講習会に期待するものは」との除雪講習会受講の効果を探ることを意図した質問で「技術向上・人材育成・安全教育」でほぼ一致している。

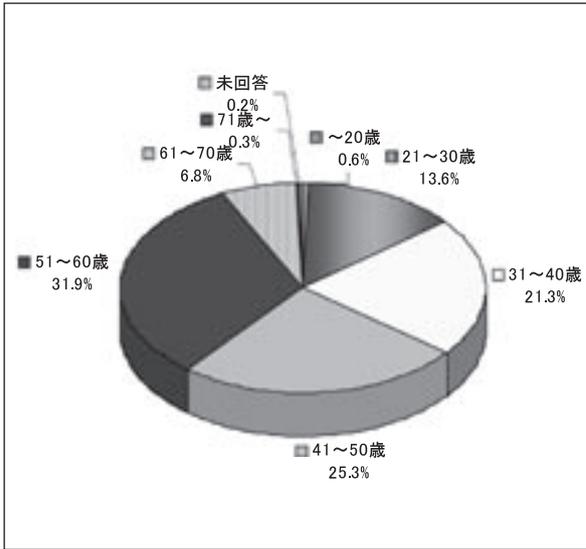


図6-1 年齢

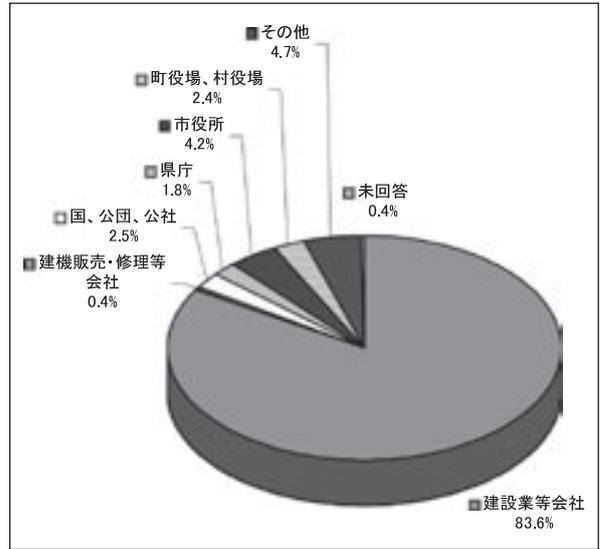


図6-2 勤務先

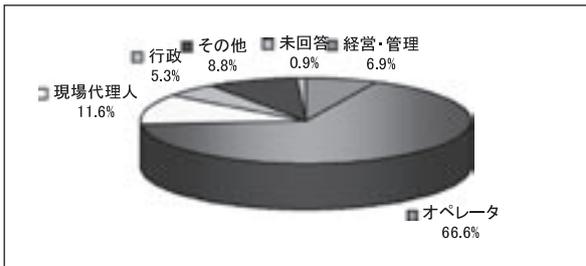


図6-3 職種

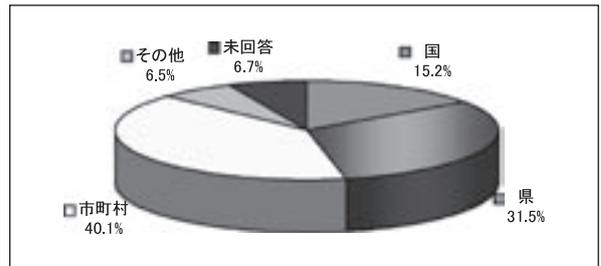


図6-4 仕事の従事先

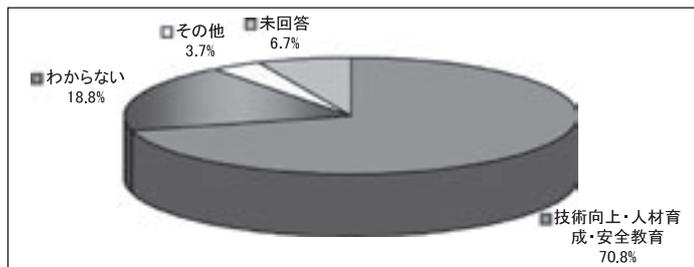


図6-5 講習会に期待するもの

7. 最後に

今年も、東北6県9会場で10回（滝沢会場のみ2回）計画し受講申し込みを受けた結果、予想より多くの方の申し込みがあり各会場満員状態となり一部希望の講習会場で受講できず、やむなく遠方の会場で受講された方もおり、大変ご迷惑をかけました。

講習内容は初めて受講されるオペレータの方を意識して、さらに市町村の除雪方法の事例も多く取り入れ、パワーポイントによる説明では重要事項について一部動画を取り入れ説明した。結果アンケートによる満足度で参考になったが65%と高い評価をいただきました。今後もできるだけみなさまの意向に添った講習会にすべく改善して参ります。

この講習会が除雪作業の効率化と作業の安全等について寄与できれば幸いです。

最後にこの講習会の実施にあたり、ご指導とご協力を賜りました東北地方整備局、東北の各県庁、警察本部及び警察署、当協会支部除雪分科会の皆様方に謝意を表し報告とします。

5. 講習会テキスト「道路除雪の手引き（18年度改訂版）」目次

- (ア) 冬季における道路交通の確保
- (イ) 冬の気象と雪
- (ウ) 除雪計画
- (エ) 除雪工法
- (オ) 歩道除雪
- (カ) 路面凍結処理
- (キ) 除雪作業の管理
- (ク) 除雪機械の取り扱い
- (ケ) 安全対策



講習会テキストの目次は上記の通りですが、その内の安全対策の一部を紹介すると「事故例から学ぶ安全作業の秘訣10箇条」、「危険予知訓練(例)」などの事例写真等により安全作業の徹底を促しております。

6. 受講者アンケート調査結果

18年度除雪講習会の受講者全員を対象にアンケートをお願いし、受講者の構成、講習会の内容や運営、及び除雪作業環境などについて数多くの貴重なご意見ご提案をいただきました。これら意見、提案等に対しまして除雪分科会などで検討を重ね、今後の講習会に反映させていきたいと思っております。

受講者数：2,764名、回答者数：2,456名、回答率：89%

(1) 受講者の年齢

受講者の年齢は51～60歳が最も多く31.9%、ついで41～50歳が25.3%で近年はほぼ同様の傾向になっております。(図6-1)

(2) 受講回数

初めての受講が57%と大半を占め3回目以内で大部分の90%を占めております。

(3) 受講者の勤務先

受講者の勤務先は約8割強が建設業等の会社となっており大部分の除雪工事が請負化されている結果と推測されます。(図6-2)

(4) 受講者の職種

職種は除雪に直接従事しているオペレータが圧倒的に多く67%である、次いで現場代理人12%、経営・管理者7%であった。(図6-3)

(5) どの仕事に従事していますか

仕事の従事先は県・市町村が71.5%で、国が15.2%である。

本講習会は開催初期には国直轄の除雪作業に従事するオペレーター等の育成等のための除雪講習会としてスタートしているが、現在では県・市町村の道路除雪に従事するオペレーター育成のためにも重要な講習会に変わっている。このため講習内容についても県・市町村の除雪作業も多く反映させていく必要がある。(図6-4)

(6) 前回受講年度

国土交通省では講習受講の有効期限を5年としているため、その期限に該当する13年度が最も多く51%ついで14年で有効期限には1年余裕ありますが13%受講されています。

(7) 講習会の回数

現在の除雪講習会の回数をオペレーターと現場代理人に聞いたところ、現在の回数でよいが46.5%、同一会場で回数を増やすが20.6%、場所を変えて開催が15.4%であり一会場の人数が多く聴きづらい会

平成18年度除雪講習会を開催

施工部会長 山崎 晃

平成19年度除雪講習会は平成18年10月に東北各地9カ所で10回開催しました。

この講習会は国土交通省東北地方整備局をはじめ諸官公庁のご指導により、道路除雪を主体にした除雪作業の安全・円滑な遂行のための除雪期前準備講習会として実施しております。

今年の受講者数は2,764名で参加機関別の内訳は国縣市町村等の関係者が約11%、建設業等の方が約84%で、職種別ではオペレータが約67%と最も多く現場管理等の担当者が約12%、行政その他約21%でした。

18年度の主な変更点は①会津地区では受講者増に伴いより大きな会場がある「会津アピオ」に変更し②岩手県南地区の金ヶ崎会場はより交通の便がよい北上市の「さくらホール」に変更等、少しでも良い環境で受講できるよう考慮しております。③講習内容は特に理解しやすくするため説明に動画を加えて実施しました。

1. 講習会の目的

道路除雪事業従事者に対し、「除雪計画、除雪工法、除雪作業の安全対策、除雪機械の取り扱い等」の習熟度を高め、除雪作業の効率化と作業の安全に寄与するものとししました。

2. 受講対象者

国、地方自治体及び除雪作業委託企業等の除雪機械運転員、整備員及び除雪担当者等です。

3. 講習開催日及び受講者数

開催日	会場	受講者数
10月10日(火)	滝沢村岩手産業文化センター	378
10月11日(水)	青森市ウエルシティ青森	276
10月13日(金)	北上市さくらホール	169
10月18日(水)	山形市べにばなスポーツパーク	239
10月19日(木)	横手市秋田ふるさと村	331
10月20日(金)	秋田市秋田テルサ	248
10月25日(水)	仙台市ウエルサンピア仙台	249
10月26日(木)	新庄市新庄市民プラザ	190
10月27日(金)	滝沢村岩手産業文化センター	383
10月31日(火)	会津若松市会津アピオ	301
	計	2764



4. 講習内容及び講師

講習会ではテキスト「道路除雪の手引き」による説明の補助資料としてパソコンによるプレゼンテーションにより説明を行いました。講習内容は下表の通りです。

講習内容	時間割	講師等
国の除雪の取り組みについて	10:05~10:25	開催地の東北地方整備局・河川国道事務所担当官
県の除雪の取り組みについて	10:25~10:45	開催地の県土木部等の道路除雪担当官
施工方法と作業のポイント	10:45~11:50	当協会会員の担当技術者
外国の最新除雪機械	11:50~12:00	当協会会員の担当技術者
除雪作業の安全対策	13:00~13:25	当協会会員の担当技術者
事故とヒヤリハットの事例	13:25~13:40	当協会会員の担当技術者
冬の交通安全	13:40~14:10	各地域の警察担当官
除雪機械の取り扱い	14:20~15:30	当協会会員の担当技術者
閉会及び受講証交付	15:30~15:50	当協会事務局



とうほく

社団法人 日本建設機械化協会 東北支部 支部たより

Spring 2007 Vol.151

平成18年度除雪講習会を開催

安全について

